

文化・芸術

「コンポジション」

1952年、陶板レリーフ
44・4センチ×34・0センチ

フェルナン・レジェ

(1881～1955年)

フェルナン・レジェは、ピカソやブракに影響を受け、キュビズムを追求した20世紀フランスを代表する芸術家の一人です。急速に発展する都市の中で、やがて機械に造形的な美を見いだし、単純な形態と明快な色彩による独自の抽象表現へと到達しました。第2次世界大戦後は絵画や版画のほか、壁画やステンドグラス、陶器、彫刻、映画など、幅広い分野の創作活動を行いました。

晩年の1952年に制作された本作は、陶器の産地として名高い南仏のピオットで制作された陶板レリーフの一つでしょう。レジェ独特の曲線的なかたちが重なり合うようにリズムカに構成されています。特に、赤・青・黄という鮮やかな色彩と背景の白、そして、立体的でボリュームのあるかたちとフラットな背景という2種類の「コントラスト」にレジェの関心が寄せられていることがうかがえます。

この作品は、25日からのコレクション展でご覧いただけます。
(佐藤)

名画の扉

大川美術館コレクション展から

